



# モエツ★カミイ 80

NO.

APR 2011

●モエツ・カミイとはアイヌ語で「エゾクヌキ」のことです。

## あさひやまどうぶつえんニュース ASAHIYAMA ZOO NEWS



もくろ

ぼくは、動物大使  
その41 ヒマラヤの美しき王  
ユキヒョウ……………2.3

特集  
知床と共に見る夢～  
野生動物と共に暮らす未来のために～…4.5

飼育研究レポート  
オオカミの森・真の完成へ…6

動物病院VETニュース  
2010年を振り返って  
こども牧場だより…7

主なできごと…8

編集後記…8

ユキヒョウ  
*Uncia uncia*





ほくは、  
**動物大使**

**その41 ヒマラヤの美しき王 ユキヒョウ**

**ユキヒョウ**

*Uncia uncia*

ヒマラヤ・チベットの山岳地帯に棲息する。獲物や積雪に合わせて夏は標高の高い所、冬は標高の低い所へ移動する。

夜行性で、主に単独生活をし、メスのみが子育てをする。

アイベックスやマーコールなどの野生ヤギや、ナキウサギなどの小動物を捕食する。家畜を襲うこともある。

**ユキヒョウの分布**



**体**

体長1m~1.5m。

体重25kg~90kg。

寒冷地に棲息するため、長い毛に覆われている。

**尾**

尾長80cm~1m。

身体に比べ尾がとても長く、断崖でバランスを取るのに適している。



**鼻**

鼻には冷たい空気に湿気を与え温める機能がある。

**爪**

鋭く、出し入れできる爪を持つ。手前に反り返った爪で、狙った獲物を逃がさない。崖や木に登る時にはすべり止めの役割も果たす。

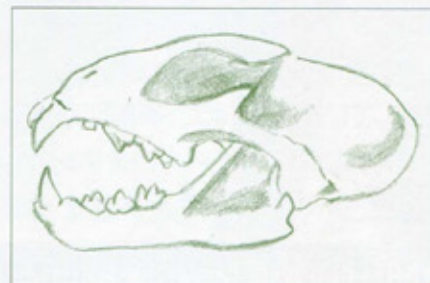


**狩り**

絶壁の高所から低所へ、果敢に獲物にとびかかり、ダイナミックな狩りをする。長い尾や短くて太い足は、絶壁で狩りをするための適応だ。

**歯**

獲物を捕らえる犬歯、肉を切り取る門歯、骨まで砕く裂肉歯。すべて肉食のための歯だ。



**あさひやまのユキヒョウ**



●ヤマト/オス (2009年5月2日生まれ)

円山動物園で生まれ、2010年12月10日に旭山に来園。ヤマトのひいおじいちゃんがゴルビーの弟なので、ヤマトとゴルビーは遠い血縁である。精悍で美しい毛並みを持つが、まだどこかあどけない表情をしている。旭山の施設にも慣れてきて、せりだした檻の上にもよく登っている。



●ゴルビー/オス (1991年4月20日生まれ)

1992年に旭山に来園。「もうじゅう館」建設前からの古参であったが、2011年3月3日、腎不全により死亡。享年19才。寿命約15年のユキヒョウとしてはかなりの長寿だった。もうじゅう館のせり出した檻で「肉球まで観察できる展示」として多くの来園者に親しまれてきたのはあまりにも有名。ゴルビー、長い間ありがとう。安らかに...

**伝説のヒョウ**

ユキヒョウが生息するのはヒマラヤ山脈など、標高が高く険しい地形の奥地。野生の姿を発見するだけでも困難で、野生での生態は現在でも謎が多いそうです。

「ヒマラヤの奥地に白銀の毛皮を持つヒョウが棲むという」つい最近まで、伝説のような存在だったのです。ユキヒョウの美しい毛皮や威厳のある鋭い眼光などは、伝説のヒョウと呼ぶにふさわしい姿に思えます。

みなさんも旭山動物園へ「伝説のヒョウ」ユキヒョウに会いに来て下さい!

**ユキヒョウとヒトとの関わり**

ユキヒョウは、その美しい毛皮や、骨(漢方薬になる)を目的に密猟の対象とされたり、家畜を襲う害獣として駆除されることもあります。また、麻薬を密輸する際にユキヒョウの脂を塗ると麻薬探知犬に探知されないといわれ、その脂を取るために乱獲されました。

かつては伝説の存在であったユキヒョウも、現在は様々な形で人間の影響を受けているのです。

生態系の頂点に立つ肉食獣は元々の個体数が少ないため、乱獲による影響も強く受けます。今後はユキヒョウの積極的な保護が望まれます。



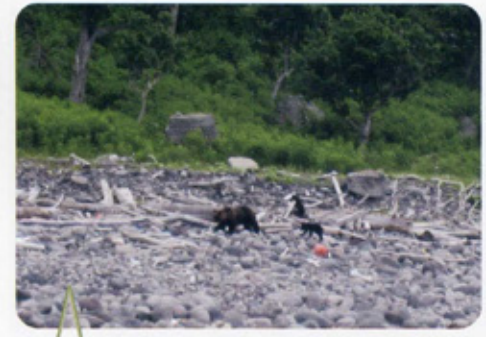
# 特集 知床と共に見る夢～ 野生動物と共に暮らす未来のために～

今回の特集は、北海道の知床についてです。  
知床は2005年世界自然遺産に登録された場所です。旭山動物園からは約280kmも離れている場所になります(地図参照)。  
今回の特集では、現地で活躍する知床財団の方々と旭山動物園とが協力して行っている様々な取り組みを紹介していきます。

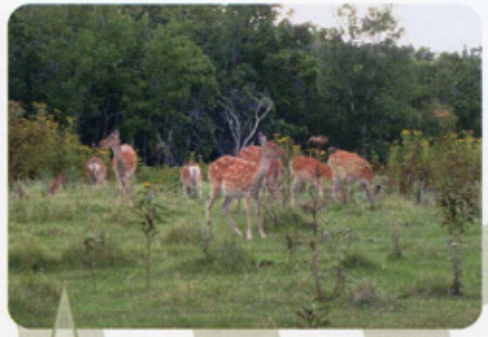


## 世界自然遺産知床って?

2005年7月に日本で三番目に世界自然遺産登録された場所が知床です。知床は、アイヌ語で「シリエトク」、つまり「地の果て」という意味があります。  
知床には、冬になると流氷がやってきます。この流氷が動物たちを養います。流氷により大量のプランクトンが海で発生し、魚類や海鳥が集まり、それを狙うクジラやアザラシ、そしてシャチなどが生活しています。  
夏から秋にはサケなどの魚類が海から河川を遡上し、それをヒグマやオシロワシ、シマフクロウが捕食します。そして、これらの動物の排泄物や死骸は、植物の栄養素として陸地に還元されます。  
このように、海や陸の恵みを受けながら過ごしている動植物の自然の生態をみることが出来る場所が知床というわけです。



海岸沿いを歩くヒグマの親子



草原に現れたエゾシカの群れ



冬に飛来するオオワシ

## 公益財団法人知床財団って?

1988年に設立されて以来、知床自然センター(北海道斜里町)、羅臼ビジターセンター(北海道羅臼町)を拠点に、環境教育や普及啓発活動、野生動物の保護管理活動、調査研究活動を行っています。ヒグマをはじめとする野生動物対策のための専門チームを持ち、各機関と連携をとりながら知床地域のヒグマ対策の実働部隊として活躍しています。知床ではヒグマによる人身事故は過去20年以上発生していません。また、斜里町が推進する「しれとこ100平方メートル運動」の現地業務を担い、開拓跡地を原生の大自然に戻すための森づくりも行っています。出資者は斜里町、羅臼町で、知床半島を分かちこの二つの町を舞台に、多くのボランティアと賛助会員に支えられながら世界遺産・知床の大自然を「知り・守り・伝える」活動をしています。

## これまでの旭山動物園と知床財団との取り組みの紹介

### 知床におけるエゾシカの現状パネル



→「エゾシカの森」には、知床の現地で起きているエゾシカの現状を、現地の方々の言葉やイラストを使って子どもでもわかりやすく、楽しく現状を知ることができ、現地の生の声が知れる看板を展示しています。  
もちろん、知床財団の職員の方々による手書きで作成された看板となっています。

## 知床ヒグマわくわくウィークエンド in 旭山動物園 (2009年8月)



→この時だけ限定的「ヒグマのもくもくタイム」実際に知床で食べているエサを持ってきて、それを食べる姿などを観察してもらい、たくさんの方々にヒグマのことを知ってもらいました。



→パネル・ブース展示は、エゾシカやヒグマの本物の毛皮・頭骨やヒグマの冬眠穴が出現! 来園者の方々もとても驚いていました。



→「親子でヒグマ調査隊」は、実際に知床で行っているヒグマの調査を疑似体験できる参加型イベント。



→旭山動物園内で知床にいる動物のクイズラリーを行いました。もちろん景品付き!

## 知床におけるヒグマの現状パネル (2010年～)

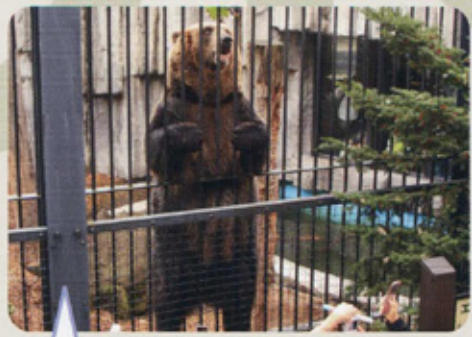


→知床財団が行っている、ヒグマの調査などを紹介しています。そしてヒトとヒグマがこれからどのように付き合っていけばよいのかを考えさせられる看板になっています。このパネルは、2009年に旭山動物園で、その後知床で展示され、その時ご覧になった感想も書き込まれ、現在は「もうじゅう館」前に展示されています。  
このパネルも知床財団の方々の手書きで作成された看板となっています。

## 知床ヒグマわくわくウィークエンド2010 IN 旭山動物園 (2010年10月)



ブース展示では、知床財団が行っている活動紹介やエゾシカやヒグマの本物の毛皮を・頭骨を展示し、来園者の興味・関心を引きました。



2009年に引き続き「ヒグマのもくもくタイム」を行い、ヒグマが何を食べているかを伝える看板も登場し、よりわかりやすく伝えました。また、秋に食べるサケも現地知床から持ってきました。



ヒグマ調査隊は、2009年よりもパワーアップ。ヒグマの足跡や糞などを使い、痕跡調査。また調査ノートを配布し、情報を書き込み、より現場に近い調査の仕方を行いました。

## 旭山動物園と知床財団とのこれから

このような経緯を踏まえ、2011年2月14日に、旭山動物園(旭川市)と(財)知床財団がヒトと野生動物との共存を目指し、連携と協力をしていく協定を結びました。  
これから旭山動物園と知床財団が協力し、北海道の野生動物とどのように付き合っていくか、そして彼らとどのように一緒に暮らしていけばいいかをテーマに、今までの取り組みをベースにしながら、さらに最新の情報を発信していき、北海道の自然を守っていければと思います。







# 飼育研究レポート



## オオカミの森・真の完成へ

### 1.「遅れてきた新人」の夢

ぼくが飼育係になった2006年4月は、「ちんぱんじーの森」が建設中、そして次の新施設は「オオカミの森」と決まっていた。

オオカミ!動物を新規導入してまでの新施設。まだ見ぬオオカミは、いったいどんな動物なんだろう?自分もいつかそんな新施設を担当してみたい!そう思っていました。

### 2.オープン!そして悲劇…

2年後の2008年6月。いよいよオオカミの森オープン!最初のオオカミ担当は…残念ながらぼくではありませんでしたが、カナダから来たオオカミたちの漆黒の毛並みと金色の瞳に、ぼくは一目で魅了されました。オオカミを担当したい気持ちが、いっそう強いものになりました。

しかし、あさひやまのオオカミ「群れ飼育」は最初でつまずきました。闘争が起こり、クリスは死亡、マースは右前脚に重傷を負いました。メリーはケンとの近親交配を避けるために別居を余儀なくされました。

夢にまでみたオオカミ担当は、そんなドン底の状態で、ぼくに引き継がれることになったのです。

群れ飼育につまずいた旭山動物園に対し、歯がゆい気持ちや批判的意見を抱いた方も多いことでしょう。なかなか繁殖しないオオカミの森を見て「なんだ2頭しかないの?」とがっかりするお客さんの声も聞こえます。

しかしそんな状況でもなお、オオカミの金色の瞳にはぼくの心を震わせる「何か」が宿っていました。「いつか担当してみたい」そのいつかが今、やってきたのだ。ぼくがこの施設を立て直さなければ!

そして「繁殖に成功した時、この施設はきっと生まれ変わる。」そんな確信めいた予感を、今も抱き続けています。

### 3.あさひやまの悲願

マースが負傷したとき、右前脚は最悪の場合切断になるかもしれないと考えられました。でも獣医と飼育係で協力しての大手術、そして半年に及ぶ麻酔治療・リハビリ。その甲斐あって、今、マースは4本の脚で放飼場を駆けまわるまでに回復しています。

あとはマースを、一人前の母オオカミにしてあげたい。マースが子育てする姿を、この目で見てみたい!オオカミ繁殖は今や園を挙げての「悲願」と言っても過言ではないでしょう。また繁殖を成功させることが、怪我をしたマースや、死んでしまったクリスへの唯一の償いだと思っています。

### 4.「真の完成」へ

繁殖に成功した後も、オオカミ群れ飼育にはたくさんのハードルが待ち構えています。しかし、とにかくまず最初の繁殖に成功しなければ何も始まりません。ここまで来たらもう、ぼくがやるしかないでしょう!「必ずオオカミを繁殖させる。そのために(あさひやまに)来た。」という強い信念でいます。

どうやらぼくは逆境にあるほど叛骨心で燃え上がる性格のようです。

2010年1月には、手作りの巣箱をオオカミの森の丘に埋めました。野生と同様、巣穴で子育てするオオカミの姿をご覧いただくのが狙いです。飼育係のみんなも、ほとんど総出で作業を手伝ってくれました。さっそく2月にはケンとマースの交尾も確認されたのですが、昨年は残念ながら妊娠には至りませんでした。

でも、まだまだ若いケンとマース。今シーズンはさらに期待できることでしょう!

2011年春。今年こそオオカミの森「真の完成」なるか!?このモユクカムイが発行される頃には、どんな結果を迎えていることでしょうか?

(オオカミの森・てながざる館担当:大西 敏文)



最大4頭いたオオカミも、今はケンとマースの2頭のみ。



ケン♂3才。性格は野生味を残す。



マース♀2才。性格はおっとり、やや臆病?





# 動物病院VETニュース



皆様こんにちは。今回のVETニュースは佐藤が担当いたします。

さて今回は昨年(2010年)を振り返ってみたいと思います。2010年は動物業界にとって激動の一年でした。え?何かあったかな?と、お忘れの皆様も多いでしょう。4月20日に日本では10年ぶりとなる口蹄疫の発生が宮崎県で確認されました。7月27日には家畜の移動制限区域がすべて解除されましたが、約3ヵ月の間に211,608頭の牛、豚、山羊、羊が殺処分され埋却(地面に埋めること)されました。また、10月には稚内で野鳥(カモ)の糞から高病原性鳥インフルエンザウイルスが確認され、現在まで全国各地で野鳥や養鶏での感染が起こっています。

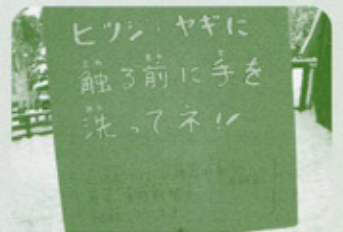
口蹄疫はほ乳類・偶蹄目の、高病原性鳥インフルエンザは鳥類の感染症です。テレビや新聞などでは主に家畜における報道が多かったですよね。でも、もちろん動物園にも感染する可能性がある動物はたくさんいます。

このため旭山動物園でも飼育動物をこれらの感染症から守る対策を行っています。具体的には各動物舎に入る前の長靴の消毒の徹底と、感受性動物(感染症にかかってしまう可能性のある動物)と来園者との距離を取るという対策です。

消毒薬入りのオケ(踏み込み槽)に長靴を浸すことによって長靴についている細菌やウイルスを消毒します。ちなみに消毒液は初め鮮やかな(毒々しい?)ピンク色なのですが、何回も靴を洗うと色が透明になってきて「そろそろ新しい液に変える時期だよ～」と教えてくれます。また、国内で口蹄疫が発生していた時期にはエソシカの森やこども牧場のヤギ、ヒツジの放飼場にロープを張ってお客さんと動物が直接触れ合えないようにしました。エソシカの森も、こども牧場も人気の施設なので動物を近くで見たり、触れ合いたいという方も多かったとは思いますが動物園の動物たちを守るための対策にご協力いただきました。

このように旭川から遠い街や遠い国で起こっている感染症がいつ侵入してくるかわからないという状況が今の日本であり世界なのです。と言うと皆さんを脅しているように感じるかもしれませんが、でも一番大切なことは「知る」ことなのだと思います。どんなウイルス?細菌?人には移るの?などパニックにならないように、冷静に、情報を選び取っていただきたいと思います。日本では口蹄疫は終息していますが、隣国の韓国では現在も猛威をふるっています。また、鳥インフルエンザに関しては1月現在国内での発生が毎日のように報告されているので気が抜けない状態が続くと思います。動物園でも飼育係、獣医が丸丸となって飼育動物の健康を守っていきたくと思います。

(獣医師・カバ・フクロウ担当:佐藤 伸高)



あさひやまでも口蹄疫対策。



足浴槽の消毒液です。



## こども牧場だより



ついこのあいだ新年を迎えたと思ったのに…あっという間に夏期開園です。もう旬は過ぎてしまったような気もしますが、今年はウサギ年ということで、ウサギのお話です。

こども牧場にいるウサギは「カイウサギ」という種類です。このウサギは野生では存在しない「はず」のウサギです。「はず」というのは、カイウサギは私たち人間がヨーロッパアナウサギを飼いならしていくなかでつくりだした家畜だからです。なのにいま、カイウサギが野生化するという問題が起こっています。「人間がつくった動物」なので、野生化する原因も必ず人間が関わっています。こども牧場にはカイウサギのほか、いろいろな家畜・ペットに関する看板があるのでぜひ読んでみてくださいね。

さて、じつはこども牧場で、1年のうちでいちばん多く子ウサギがいるのが、3~5月なんです!カイウサギは決まった発情期はなく、交尾の刺激で排卵が起こります。GWにふれあい要員(仔ウサギ)がたくさんいるように、逆算してペアリングをしています。今年はペアの相性がよかったようで、かわいちゃんがたくさんうまれました。先輩ウサギたちと交代でふれあいに出ますので、会いに来てくださいね!

ところで、こども牧場は「もぐもぐタイム」「なるほどガイド」のコマをたくさん持っています。日によっては3回以上あることも。いくつあるかはナイショにしておきます。めざせ全制覇!

(こども牧場・キジ舎担当:佐藤 和加子)



生後5日目 模様のはっきりしてきました。



生後2週間目 ウサギらしくなりました。



# 主なできごと

## 《2011年》

- 12月19日 ペンギンの散歩開始
- 12月20日 カピバラ(♂)埼玉県こども自然動物公園より入園
- 12月22日 ユキヒョウ「ヤマト」展示開始
- 12月25日 エゾヒグマ「とんこ」出産準備のため産室に入れる  
ペンギん館「トボガン広場」開始
- 1月11日 あざらし館「凍らせ大作戦」実施
- 1月17日 エゾヒグマ「とんこ」出産、(3頭、うち1頭死亡)
- 1月20日 ホッキョクグマ「ルル」展示再開
- 1月24日 あざらし館「流氷ひろば」完成
- 2月7日・10日 オオワシ産卵
- 2月14日 「(財)知床財団と旭川市の包括的な連携と協力に関する協定」締結
- 2月18日 「ホッキョクグマ繁殖プロジェクト共同声明」発表
- 2月22日 ホッキョクグマ「イワン」と「ルル」ペアリング開始
- 3月 2日 ホッキョクグマ「ピリカ」札幌市円山動物園より入園
- 3月 3日 ユキヒョウ「ゴルビー」死亡
- 3月 7日 ホッキョクグマ「ピリカ」展示開始
- 3月13日 エゾヒグマ産室のライブ映像公開
- 3月14日 ホッキョクグマ「ピリカ」と「サツキ」同居開始
- 3月16日・18日 オオワシふ化(自然)
- 3月21日 クマタカ産卵(当園初)
- 3月26日 ゴマフアザラシ「ヒカル」出産(人工)
- 3月28日 ペンギンの散歩終了
- 4月 7日 冬期「雪の中の動物園」閉園



産室で子育て中のとんこ



ピリカ来園



ゴマフアザラシ♀命名「ぼちゃ丸」

## モクカムイのご感想をお寄せください

あなたはモクカムイを読んでどのようなこと  
をお感じになりましたか?ご意見・ご感想をお  
寄せください。抽選で記念品を差し上げます。

宛先

〒070-8205 北海道旭川市 東旭川町倉沼  
旭川市旭山動物園「モクカムイ編集部」行き

## 編集後記

長寿だったユキヒョウのゴルビーが亡くなりました。同い年のメス・プリンと共に、もうじゅう館で長い間親しまれてきた個体でした。

今後その役割は、ゴルビーと血縁でもあるヤマトに受け継がれます。

もうじゅう館には嬉しいニュースもありました。エゾヒグマ・とんこの出産です!  
くまぞう・とんこはどちらも親グマが人里に出て殺され、仔グマで保護された個体です。その2頭が動物園で命を紡いだことは、北海道の人と自然との共存を考える上で大きなメッセージが込められているように感じます。

今回のモクカムイが発行されるころにはきっと、仔グマたちもお披露目されていることでしょう!

もうじゅう館ができて13年。動物たちも世代交代が進み、新たな時代を迎えています。  
(大西)

## モク・カムイ No.80 平成23年4月29日

発行所 旭川市旭山動物園 〒070-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104

発行 坂東 元 <http://www5.city.asahikawa.hokkaido.jp/asahi/amazoo/>

編集委員 中田 真一・畠山 淳・大西 敏文

佐賀 真一・田嶋 純子

印刷 株式会社アドス・エージェンシー

〒070-0042 旭川市中常盤町1丁目 ☎0166-22-2794

## 飼育動物数 (平成23年3月末現在)

- 哺乳類……………43種……………254点
- 鳥類……………75種……………449点
- 爬虫類……………8種……………21点
- 合計……………126種……………724点